

リニューアル展示のイメージと特徴

1 エントランスホール



ボルネオ島の熱帯雨林をモデルに、3階相当の階段吹き抜け空間に「フタバガキ」のシンボルツリーがそびえ、その周囲を動植物のジオラマが取り囲む

2 熱帯雨林とは



86インチの大型モニター5台を連動させ、熱帯雨林の概要（歴史・分布・気候・構造・1日）を解説

3 人が森にしてきたこと



人が熱帯雨林から受けてきた恩恵と、人間活動による森林の破壊の歴史を解説

4 人が森にできること



熱帯雨林を守り、再生するための取り組みと、私たち個人が何をできるかの問いかけ

5 林床の世界



熱帯雨林の特異な土壌環境を土壌生物になったような視点で土の中に潜り込み、土壌分解の様子を迫力の天井投影映像で解説

6 植物の拡大戦略



動くことのできない植物が分布を広げるための動物を利用した拡大戦略を壁面投影の映像（幅9.4m）で解説。また、動物たちを誘う熱帯植物の花の香り体験や種子標本を展示

7 地球環境と熱帯雨林



熱帯雨林が担う地球全体の環境維持に関係する水と炭素の循環について壁面投影の映像(幅12m)で解説

8 世界最大級の森に暮らす小さなサルたち



マーモセットの展示通路の生息地アマゾン川をイメージした床面への照明や植栽で没入感を演出

9 ログルーム



剥製や骨格標本から知ることのできる動物たちの新たな不思議や生態を解説。ワークショップイベントもできるユーティリティ空間

10 バードホール



植物の入れ替えを実施。より熱帯雨林への没入感を図れる風景とし、熱帯雨林で環境課題となっているアブラヤシやコーヒーなどのプランテーション植物も見ることができる。1日に1度熱帯雨林特有のスコールの再現を行う